

感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2020年	研究期間	5年間
研究課題名	感染症創薬の実現に向けた薬剤の至適化と前臨床試験の確立		貢献する主なSDGs 
研究代表機関	東京大学 大学院医学系研究科		
相手国	インドネシア共和国 マレーシア	主要相手国 研究機関	バイオテクノロジー研究所、技術評価応用庁 (インドネシア) マラヤ大学、教育省 (マレーシア)
研究課題の概要			
<p>三大感染症や新興再興感染症に対し新規創薬を行うことは、科学技術を基軸とする日本の国家目標にも、持続可能開発目標SDGsにも良く合致している。日本は天然資源から抗感染症薬を発見し、研究開発する豊富な経験と実績を有するが、製薬企業での天然物分野の廃止や安全性試験の海外委託などの現況から、この分野を十分に応用・発展させていないと考えられている。本研究は、アジア3カ国の得意分野を持ち寄り、微生物資源整備から候補薬剤の安全性試験までを開発途上国内で実施できる技術・人的基盤を実装することを目的とする。天然物資源からの感染症創薬は5段階で実施される：①ライブラリー整備、②標的選定・阻害剤探索・候補化合物選定、③構造至適化、④前臨床試験による安全性・薬効評価、⑤臨床I-III相試験。我々は①-②を目的として実施した前SATREPSの成果を基盤として、アジア2カ国(インドネシア・マレーシア)と、開発途上国での創薬基盤を社会実装するために不可欠な次の段階③-④に重点を置きつつ、4つの国際感染症(結核・デング・マラリア・アメーバ症)に対して3国間国際創薬共同研究を実施する。</p>			